

モデル児童図書目録（中級）

— 小学3・4年生に読んでほしい本 —



福岡市総合図書館

はじめに

福岡市総合図書館では、子どもたちにぜひ読んでほしいと思う本を「モデル児童図書目録」として作成し、紹介しています。また、図書館内には展示コーナーを設けて、これらの本をいつでも手にとって読んでいただけるようにしています。内容により、幼児(就学前児童)、初級(小学1・2年生)、中級(小学3・4年生)、上級(小学5・6年生)の4段階に分けていますが、本書は中級のリストで、平成4年に刊行したものの改訂版です。

本の選定にあたっては、「福岡おはなしの会」や「子どもと絵本の会」のみなさん方と、図書館の相談員たちが、いろいろな分野の膨大な本を3年間かけて実際に読んで検討してまいりました。選定された本については、それぞれに分かりやすい紹介文をつけています。

選定された本の中には、昔、私自身が大好きだった物語や、子どもと一緒に読んだ本など、とても懐かしく息の長いものがあります。またこれはぜひ読んでみたいと思う本もたくさんあります。今回はノンフィクションに関しては何点か紹介しています。子どもたちにさまざまな分野に目を向けていただけたらと思います。

この図書目録が、みなさんの本選びの何かの参考になることが、作成にかかわったすべてのスタッフの心からの喜びです。

平成20年3月

福岡市総合図書館長 植木 とみ子

凡 例

- 1 この目録は平成4年11月作成の、モデル児童図書目録（中級）を基として、福岡市総合図書館と「福岡おはなしの会」、「子どもと絵本の会」が協力して選定した、小学3・4年生用の図書112点をまとめたものです。
- 2 配列は日本十進分類表の分類の順で、最後に絵本(E)を収録し、各区分内は書名の50音順です。
- 3 図書に関する記載事項は、書名、副書名、シリーズ名、著者名等(著者名、画家名、訳者名等)、出版社、出版年、福岡市総合図書館請求記号、ページ数、図書の大きさ、定価、原書名、原書の出版年の順にしています。
- 4 著者名等(著者名、画家名、訳者名等)の表示については、当該図書に記載されているものに従いました。
- 5 本体価格、絶版品切れは、選定時のものによりましたので、その後の変更につきましては、ご了承ください。
- 6 巻末の著者等(著者名、画家名、訳者名等)の索引は、50音順に配列しています。ただし、同一人物で図書によって表示が違う場合は統一しています。



星座を見つけよう

(科学の本)

H・A・レイ / 文・絵

草下 英明 / 訳

福音館書店 1969年 44レ

72P 31cm 1,500円

Find the constellations (1954)

子どもから大人まで楽しめる星座の手引書。星の名前はもちろん、星にまつわる物語、星の明るさについて、実際に星を観察するときの注意点など、星についてのさまざまな知識が、子どもの視点に立って説明されている。

ただの知識だけではなく、友達に会うように星を見て、もっともっと知りたいと探究心がわいてくる。



絵ときゾウの時間とネズミの時間

(たくさんのふしぎ傑作集)

本川 達雄 / 文

あべ 弘士 / 絵

福音館書店 1994年 481モ

40P 26cm 1,300円

ゾウは大きくて、長い一生をゆったり生きる。ネズミは小さくて、せかせかした短い一生だ。しかし、ほ乳類が一生の間に打つ心臓の回数は、「15億回」でみんな同じだ。私たち動物は、それぞれに違った自分の時間を生きている。この平等に与えられた時間をどう生きるのか。説明も絵もわかりやすく、いろいろなことを考えさせられる。



ダーウィンのミミズの研究

(たくさんのふしぎ傑作集)

新妻 昭夫 / 文

杉田 比呂美 / 絵

福音館書店 2000年 483頁

40P 22×22cm 951円

生物は進化するという説、進化論で有名なイギリスの学者ダーウィン。彼が最後に書いた本は、ミミズについての本だった。ダーウィンは28歳の時から実に40年以上、ミミズの研究を続けていた。その気の遠くなるような実験と観察の繰り返しを、わかりやすい文章と親しみやすい絵で解説している。遠い存在だった有名な学者が、ぐっと身近な存在に感じられる。



ダンゴムシ

(やあ！出会えたね)

今森 光彦 / 文・写真

アリス館 2002年 485頁

32P 26cm 1,400円

2歳の息子が庭で口をもぐもぐさせている。見ると、口の中にはよだれだらけのダンゴムシがいた。ここからこの観察写真集は始まった。何度も繰り返される脱皮の様子や、体をダンゴのように丸くする瞬間や、産卵の時を、カメラはクローズアップしてみせてくれる。子どもの身近にいるこのムシを、著者は自身の幼年時代の思いも重ねて温かく撮っている。



びょうきのほん (1・2・3)

(福音館のかぐのほん)

山田 真 / 文

柳生 弦一郎 / 絵

福音館書店 1989年 49ヤ

109P, 102P, 111P 25cm 各 1,800円

小学3年生の男の子が、近所の小児科のワハハ先生から、病気についての説明を受ける。1巻は、おたふくかぜや水ぼうそうなど、よく知られている5つの病気についての話。少し難しい説明も、ユーモラスな絵とやさしい言葉づかいで、子どもにもちゃんと理解できるように書かれている。全3巻のシリーズである。



世界のむかしばなし

瀬田 貞二 / 訳

太田 大八 / 絵

のら書店 2000年 90セ

159P 21cm 2,000円

スウェーデンの昔話「くぎスープ」、スペインの昔話「はんぺらひよこ」など、世界各国のお話が14編。とほうもないほら話やこっけいな話、ちょっとドッキリする話など、バラエティにとんでいて読みやすい。瀬田貞二による訳文の言葉にはリズムがあり、声に出して読んでもらうと心地よく、楽しい。

姉妹編に「日本のむかしばなし」がある。



くまさん

まど みちお / 作

童話屋 1989年 911マ

147P 16cm 1,250円

手のひらサイズの小さな詩集で、表題の「くまさん」は、春の幕明けを告げる冒頭詩である。四季折々の事物や動物が登場して、見開き2ページで完結するシンプルさ。「ふしぎなポケット」「ぞうさん」など、歌える詩も多い。

「うさぎに うまれて うれしい うさぎ」のように、生きとし生けるすべてのものが、いとおしく歌いあげられている。



しゃべる詩あそび詩きこえる詩

はせ みつこ / 編

飯野 和好 / 絵

富山房 1995年 911シ

159P 23cm 2,200円

編者はことばのパフォーマンスの専門家である。谷川俊太郎、まどみちお、草野心平など日本を代表する詩人の作品をはじめユーモアあふれる詩や楽しいことばあそびが、全部で57編。声に出して読むと、ことばがいきいきと動きだし、楽しいリズムにココロも体もうれしくなってくる。

「みえる詩あそび詩きこえる詩」もある。



だだずんじゃん

川崎 洋 / 詩

和田 誠 / 絵

いそっぷ社 2001年 911カ

125P 22cm 1,600円

てつぼうの さかあがり はじめてできた だだずんじゃん
またひとり ともだちふえた だだずんじゃん

タイトルの「だだずんじゃん」は、作者の川崎洋が作った言葉。これまでの言葉では言い表せなかった気持ちを言い表してくれる不思議な言葉。大きな声で読んだり、早口で読んだり、リズムをつけて読んだり、言葉で遊ぶ楽しさをたっぷり味わわせてくれる詩集。



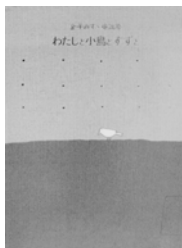
てんとうむし

阪田 寛夫 / 作

童話屋 1988年 911サ

153P 16cm 1,250円

「サッチャんはね サチコっていうんだ ほんとはね.....」多くの人が耳に親しんでいるこの歌の詩は、阪田寛夫によって書かれたものである。この本には、表題の「てんとうむし」や「サッチャん」「びりのきもち」など 42 の詩が収められている。作者の自由な発想と、自然に対するいとおいしい気持ちが詰まった詩集。言葉のリズムや響きなどは、声に出して読むとより一層味わい深くなる。



わたしと小鳥とすずとし

金子みすゞ童謡集

金子 みすゞ / 著

J U L A 出版局 1984年 911カ

160 P 18cm 1,200円

大正末期から昭和にかけて、短い期間にたくさんの詩を送りだした金子みすゞの詩の中から選び出された約 60 編が収められている。大きな視点を持ちながら、だれも目をむけることのなかったささやかな存在にも光を当てた、優しい詩。素朴で飾らない、だからこそ伝わる日本語の美しいリズムを心で感じることができる。



車のいろは空のいろ

あまん きみこ / 作

北田 卓史 / 絵

ポプラ社 新装版 2000年 913アマ

125 P 22cm 1,000円

田舎から出てきて、町のタクシーの運転手をしている松井さん。その松井さんが運転する空色の車の中での出来事が 8 編、収められている。移りゆく四季の風景をバックに、現実の世界と共存する、目に映らなくても気配を感じる何かを、叙情の世界ととらえている作者の思いが伝わってくる。



黒ねこサンゴロウ 1

竹下 文子 / 作

鈴木 まもる / 絵

偕成社 1994年 913 タケ

125 P 22cm 1,000 円

黒ねこサンゴロウシリーズ 10 冊の最初のお話。失われたうみねこ族の宝を求めて旅を続けるサンゴロウとケン少年との出会いが描かれている。その宝とは、うみねこ族に古くから伝わる「海図と船の設計図」。冒険を通して大きく成長するケン少年。ボロボロになった紙に書かれた地図を頼りに、宝を探し続けるサンゴロウの冒険がここから始まる。



クワガタクワジ物語

(偕成社文庫)

中島みち / 著

偕成社 2002年 913 ナカ

183 P 19cm 700 円

主人公の太郎が小学 2 年生の夏につかまえたコクワガタの飼育体験記である。名前はクワジ。太郎の家のみそ樽の中で 3 度の夏を奇跡的に生きた。えさや住まい作りの工夫、虫の縄張り争い、伊豆への観察旅行等を折り込みながら、クワジとの出会いから死まで、虫好きの男の子の驚き、喜び、悲しみがいきいきと描かれている。さし絵も中学生になった太郎が、当時の絵日記をもとに描いている。



子どもに語る日本の昔話(1・2・3)

稲田 和子・筒井 悦子 / 著

こぐま社 1995～1996年 913 イナ

188 P 18cm 各 1,600 円

日本各地の昔話が、なじみ深いものから珍しいものまで、3巻に74編が収められている。編者は昔話の研究者と文庫で長くお話を語ってきた語り手の二人。方言は、子どもにわかりやすいことを優先してとなえ言葉や会話に残され、表現は、聞いてわかりやすく口に出して読みやすいように心がけられている。手にとりやすい小型で、行間もゆったりしているのが、想像の世界を広げる。



ごんぎつね

(岩波少年文庫)

新美南吉 / 作

岩波書店 2002年 913 ニイ

305 P 18cm 720 円

ひとりぼっちで、いたずら好きな子ギツネごん。自分のせいで兵十の母を死なせてしまったと思い、兵十の家に毎日クリやマツタケを届ける。そうとは知らない兵十は、ごんを見て火縄銃で撃ってしまう。本当はなかよくしたいのに、いたずらをしてしまうごん。そんなごんの優しさに兵十が気づくのは、皮肉にもごんの死後だった。気持ちがすれ違う悲しい話を、優しい文で描いている。



三月ひなのつき

(福音館創作童話シリーズ)

石井桃子 / さく

朝倉摂 / え

福音館書店 1963年 913 イシ

91 P 21cm 1,400円

よし子は10歳の少女である。母と二人暮らしでまだ自分のおひなさまを持っていない。今年こそは買って欲しいとひそかに思っているのだが……。どこの家庭にもある日常の生活を書きながら、その中にしみじみとした親子の情愛が感じられる。子どもと共に読み、物のあふれた現代において、物を慈しむ心を育みたいものである。



じろはったん

(児童文庫)

森はな / さく

梶山俊夫 / え

アリス館 1973年 913 モリ

174 P 22cm 絶版品切

山深い但馬の村に住む「じろはったん」は気さくな大男で、村中の人気者だ。太平洋戦争の末期、集団疎開の子どもたち22人が村へやって来た。貧しい都会の子と豊かな村の子はいがみあう。間に立ってじろはったんは心を砕く。そのひたむきな心配りが胸にしみる。おばあちゃんの但馬なまりの語り口が、優しく心地よい。



セロひきのゴーシュ

(福音館創作童話シリーズ)

宮沢賢治 / 作

茂田井武 / 画

福音館書店 1966年 913 ミヤ

56P 21cm 1,100円

ゴーシュは楽団でセロを弾いている。だが一番下手で、楽長からどなられてばかりだ。そんなゴーシュの貧しい小屋に每晚現れる動物たち。それぞれの事情をもつ動物たちと関わりながら、ゴーシュは練習を続ける。そしていよいよ本番を迎えるのだが……。自然と交感する喜びを音楽の調べと共に伝える賢治の文章は温かく、その不思議な美しい世界を、茂田井武の絵が見事に表現している。



それほんとう？

(福音館創作童話シリーズ)

松岡享子 / さく

長新太 / え

福音館書店 1973年 913 マツ

P 20cm 絶版品切

まず初めは、「あめりかうまれの ありのありすさんが あるあきの あかるいあめのあさ……」とあの言葉遊び。それは、流れるようにつながっていくあのお話になっている。次は「いっこくものいかに」が主人公のいのお話、れのお話の主人公は「れいぎただしいれっとうせい」というように、五十音分の奇想天外なお話が言葉遊びと共に楽しめる。ぜひ声に出して読んでほしい一冊。

空 白



ともだちは海のおい

(きみとぼくの本)

工藤直子 / 作

長新太 / 絵

理論社 1984年 913クド

227P 20cm 1,200円

星の輝く夜の海で、イルカとクジラが出会い友達になった。小さいイルカは体操が得意で、大きいクジラは詩や物語を書くことが得意。全く違う二人が、互いに得意なことを教えあったり、お茶やビールを飲みながら語りあったりするうちに、お互いにかげえのない存在になっていく。詩情あふれる文章が、二人の心の交流をほのぼのと温かく伝えてくれる。



ながいながいペンギンの話

(岩波少年文庫)

いぬいとみこ / 作

大友康夫 / 画

岩波書店 2000年 913 イヌ

189 P 18cm 640 円

南極で生まれたペンギンの兄弟ルルとキキの物語。元気なルルと弱虫のキキは、トウゾクカモメにねらわれたり、人間の船に乗り込んだりして、みんなに心配させてばかりいる。クジラの子ガイとの冒険、先生ペンギンと大カモメとの戦いなど、大自然の中で心身共に成長していく様子がいきいきと描かれ、長い間読みつがれている。



猫は生きている

早乙女勝元 / 作

田島征三 / 絵

理論社 1973年 913 サオ

85 P 26cm 1,300 円

太平洋戦争末期。父を兵隊にとられ東京で暮らす昌男一家と、その縁の下に住む猫の一家。母親一人で幼い子たちを抱え、乏しい物資をやりくりして一所懸命生きているのは、人間も猫も同じ。そして大空襲。罪のない生命が、いとも簡単に奪われていく。散り散りになりながら必死で逃げ惑う家族たち。この凄惨さを著者も画家も力をふりしぼって描き出している。戦争の愚かさが心にしみる一冊。



ハンカチの上の花畑
(日本の創作児童文学選)

安房 直子 / 作

岩淵 慶造 / 絵

あかね書房 1973年 913アワ

145P 22cm 1,300円

郵便屋がきく屋の酒倉のおばあさんから不思議なつぼを預かった。歌に合わせて中から小人の一家が出てくると、広げたハンカチの上に菊畑を作り、おいしい菊酒ができあがる。これを決して人に見せない、この菊酒を売らないと、おばあさんと約束したのだが……。不思議なつぼと小人たち、ハンカチの上に広がるすてきな世界。わくわくするような楽しさとなつかしさを感じさせるファンタジー。



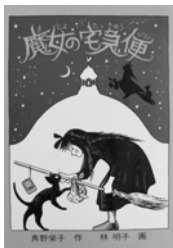
ふしぎな木の実の料理法
(こそあどの森の物語 1)

岡田 淳 / 作

理論社 1994年 913オカ

189P 22cm 1,500円

「こそあどの森」には、かわった住人たちがいる。スキッパー少年のもとに、南の島から「ポアポア」という固いふしぎな木の実と、料理法が書かれた手紙が送られてくる。しかし手紙は、配達中に雪どけ水にぬれてしまい、大事な料理法のところがわからない。その料理法をめくって、森中のみんなが知恵をしぼる。さて、どんな料理ができるかな？



魔女の宅急便

(福音館創作童話シリーズ)

角野 栄子 / 作

林 明子 / 画

福音館書店 1985年 913カド

259P 21cm 1,500円

魔女の少女キキは、昔からの習慣に従い、13歳になると黒猫ジジと一緒に大きな町で一人暮らしを始めた。キキは、新しい環境に戸惑いながらも、自分の長所を活かして周りの人に受け入れてもらい、自分の居場所を作っていく。新しい生活の不安や喜びが、思春期の少女の目をとおして描かれている。

シリーズの第1作目。



わらしべ長者 日本民話選

(岩波少年文庫)

木下順二 / 作

赤羽末吉 / 画

岩波書店 2000年 913キノ

383P 18cm 760円

最初に手にしたのはちっぽけなわらしべ一本。次々と物々交換していくうちに、最後には大金持ちに……、という有名なお話。木下順二が「安定した民話の文体」を求めて再話を試みた日本民話集。

他に「こぶとり」「三年寝太郎」など全国各地に伝わる話22編を集めたもの。お話しの語り手のための参考図書としても貴重な一冊。



子どもに語るアジアの昔話(1・2)

松岡 享子 / 訳

こぐま社 1997年 92コ

189,188P 18cm 各1,600円

昔話はどこの国にもあって、それぞれの国の味わいがある。そして、違う国の話でも不思議と共通点があったり、内容が似ているものも多い。マレーシアの「スートン王の冒険」は、天の国から降りてきた美しい娘の翼を取りあげて妻に迎え……と日本の昔話を思い起こさせる。

アジア13ヶ国の話が収められている。



だまされたトッケビ 韓国の昔話 (世界傑作童話シリーズ)

神谷丹路 / 編・訳

チョンスンガク / 絵

福音館書店 1999年 92ダ

189P 22cm 1,300円

韓国の昔話にはトッケビという生き物がよく出てくる。人がよくて、不思議な力を持っていて、いたずらが大好きというトッケビは韓国でとても親しまれている存在のようである。親切にもらったお礼に毎晩恩返しを続けたトッケビの話や、空を飛べる上着を持っているトッケビの話など15話が収められている。こぶじいさんとトッケビの話など日本の昔話と似ているものもあり興味深い。



あたまをつかった小さなおばあさん
(世界傑作童話シリーズ)

ホープ・ニューウェル / 作

松岡享子 / 訳 山脇百合子 / 画

福音館書店 1970年 93 二

92 P 22cm 1,500 円

The little old woman who used her head (1935)

むかしひとりの小さなおばあさんが、小さなきいろい家に住んでいた。とても貧乏だったが、頭を上手につかいうまく乗り越えてきた。困ったことがあると、ぬれタオルで頭をしっかりとしばり、イスに座り、人さし指を鼻の横にあてて目をつぶると、どんな難問も解決する。はねぶとんを手に入れた話、がちょうをあたたくしてやった話など 8 編。さし絵も楽しい。。



イギリスとアイルランドの昔話
(世界傑作童話シリーズ)

石井桃子 / 編・訳

J・D・バトン / 画

福音館書店 1981年 93 イ

333 P 22cm 1,600 円

ジェイコブズらによる昔話集から選ばれた、「三びきの子ブタ」「トム・ティット・トット」などイギリスの昔話22編と、アイルランドの昔話 8 編で構成されている。こわい話、おかしな話、ロマンチックな話と多彩な内容で、すぐれた訳文により、読み聞かせにも向いている。ジェイコブズの原著からとられたさし絵も、昔話の雰囲気をよく伝えている。



おすのつぼにすんでいたおばあさん
ルーマー・ゴッデン / 文
なががわ ちひろ / 訳・絵
徳間書店 2001年 93ゴ
110P 22cm 1,200円
The old woman who lived in a
vinegar bottle (1972)

むかし湖のほとりのおすのつぼの家に、一人のおばあさんがネコ
のモルトと一緒に住んでいた。貧しいながらも幸せな毎日だったが、
ある日命を助けた魚に「のぞみを全てかなえてあげましょう」と言
われてから、おばあさんの暮らしは一変……。グリム童話などに類
話があるが、これは、作者が自分の家に代々語りつがれてきた物語
をもとに創作したもので、心温まる結末になっている。



オズの魔法使い
(福音館古典童話シリーズ)
L・F・バウム / 作 渡辺茂男 / 訳
W・W・デンスロウ / 画
福音館書店 1990年 93P
317P 21cm 2,500円
The wonderful wizard of Oz (1900)

愛犬トトと一緒に竜巻に吹き飛ばされたドロシーは、不思議な国
に迷い込む。そこで出会ったのは、脳みそのないかかし、心がほし
いブリキのきこり、臆病なライオンだった。4人と1匹は、それぞ
れの願いをかなえてくれるというオズ大王の約束を信じ、西の悪い
魔女と戦う。ハラハラ、ドキドキの大冒険で、4人の成長物語でも
ある。隅々までゆき届いたデンスロウのさし絵も楽しい。



おばあちゃんのすてきなおくりもの
カーラ・スティーブズ / さく
掛川 恭子 / やく イブ・ライス / え
のら書店 1990年 93ス
94P 22cm 1,100円
Stories from a snowy meadow (1976)

独りぼっちのハタネズミおばあちゃんに、モグラとトガリネズミとハツカネズミが、スープや手作りのふとんや誕生日のケーキを届ける。喜んだおばあちゃんは、3匹にたくさんお話をしてくれた。一人より二人が楽しいこと、病気になったお友だちにしておあげられることなど、なかよく暮らすための知恵が詰まったお話だった。

おばあちゃんのすてきな生き方がしみじみと伝わってくる。



風のまにまに号の旅
(あなぐまビルのぼうけん 1)
B B / 作 神鳥統夫 / 訳
D.J. ワトキンス=ピッチフォード / 絵
大日本図書 1983年 93ピ
137P 22cm 絶版品切
Bill Badger and the wandering wind (1957)

あなぐまビルは、ハタネズミのマティから古い貨物船をプレゼントされ、そのかわり川下の銀行までお金を届けることを頼まれる。楽しい航海も束の間、海賊どらねこビッグー味におそわれてお金を奪われるが……。イギリスの自然を舞台に、アナグマやネズミなどの小動物たちが個性豊かに描かれ、スリルとサスペンスに富む物語。

「あなぐまビルのぼうけん」シリーズ、全6巻の第1巻。



かつてなカラス おおてがら
ジョーン・エイキン / 作
猪熊葉子 / 訳
クエンティン・ブレイク / 絵
岩波書店 新装版 1992年 93工
86P 22cm 絶版品切
Arabel's raven (1972)

ジョーンズさんが気絶しているカラスを仕方なく家に連れ帰った。娘のアラベルは動物が大好きで、すぐになかよくなる。モチマーと名付けられたこのカラスは、「ぜったいだめ！」としゃべり、生意気で大食らいだがどこか憎めない。ある日、モチマーは事件にまきこまれ……。アラベルとモチマーの友情や周りの大人たちとのやりとりなども楽しく、テンポよく読める愉快なお話。



がんばれヘンリーくん
(ゆかいなヘンリーくんシリーズ1)
ペバリイ=クリアー / 作
ルイス=ダーリング / 絵 松岡享子 / 訳
学研 1969年 93ク
168P 22cm 900円
Henry Huggins (1950)

小学3年生のヘンリーくんは、どこにでもいる普通の男の子。毎週泳ぎに行っているYMCAのそばで、やせこけた犬を拾った。こっそりバスに乗せて家まで連れて帰ろうとしたが、途中で犬があばれだしてバスの中は大騒ぎ。子どもの日常をいきいきと描いた楽しい物語である。

「ゆかいなヘンリーくん」シリーズの第1作目。



きかんぼのちいちゃいもうと

(その1・その2・その3)

(世界傑作童話シリーズ)

ドロシー・エドワーズ / さく

渡辺茂男 / やく 酒井駒子 / え

福音館書店 2005～2006年 93工

138P, 148P, 138P 21cm 各1,100円

「わたしが小さかったとき、わたしよりもっと小さいもうとがいた。目が茶色で、かみの毛は赤くて、鼻がすこしピンク色で、とてもきかんぼでした……」そんないもうとが巻き起こすさまざまな騒動、愉快なエピソードがつまっている短編集。毎日の暮らしの中のいもうとの様子が、明るく愛情豊かに描かれている。



グッディさんとしあわせの国

ルース・エインズワース / 作

河本祥子 / 訳・絵

岩波書店 1995年 93工

102P 22cm 1,300円

ベンは、おばあさんが送ってくれた小さな木の人形に、グッディさんと名前をつけて大切にしていた。ある日グッディさんは海に落ちて流されてしまった。姉のマーサは、いつも二人で眺めている対岸を、しあわせの国と名付け、グッディさんはしあわせの国にいるとなぐさめる。エインズワースが育った険しく美しい海辺の町が舞台となった、三つの短編集である。



くまのテディ・ロビンソン

(世界傑作童話シリーズ)

ジョン・G・ロビンソン / さく・え
坪井 郁美 / やく

福音館書店 1979年 93口
170P 22cm 絶版品切

テディ・ロビンソンはデボラという小さな女の子のお気に入りのクマのぬいぐるみ。二人は大のなかよしで、どこへ行くのも何をするのも(入院するのも!) いつもいっしょ。

日常のちょっとした出来事を温かくユーモアいっぱい描いた短いお話7編からなる。やさしい線画のさし絵も愛らしく楽しい。

続編「テディ・ロビンソンまほうをつかう」もある。



くまのパディントン

(世界傑作童話シリーズ)

マイケル・ボンド / 作 松岡 享子 / 訳
ペギー・フォートナム / 画

福音館書店 1967年 93頁
209P 20cm 1,200円

A bear called Paddington (1958)

ブラウン夫妻はロンドンのパディントン駅で、古ぼけたスーツケースに腰かけているクマと出会った。行くあてのないクマに夫妻はパディントンと名前をつけて、家族に迎えることにした。何もかもが初めてで、好奇心旺盛なパディントンは、行く先々で大騒動を巻き起こす。それに関わる人々もユーモアたっぷり、予想もしない展開が次々と繰り広げられる楽しいお話。



グレイ・ラビットのおはなし

(岩波少年文庫)

アリソン・アトリー / 作

石井 桃子・中川 李枝子 / 訳

岩波書店 新版 2000年 93ア

185P 18cm 640円

グレイ・ラビットは、誠実でとても優しいウサギ。いばりんぼうの仲間のためにニンジンの作り方を森のフクロウにたずねるが、教えてもらうかわりに、自分の大切なしっぽを取られてしまう。しっぽを取り戻すために、さまざまな危ない目にあいながら、森の動物たちと力をあわせて乗り越えていく。

グレイ・ラビットの楽しい冒険がいっぱいの物語。



黒ネコジェニーのおはなし 1

(世界傑作童話シリーズ)

エスター・アベリル / 作・絵

松岡 享子・張替 恵子 / 共訳

福音館書店 1982年 93ア

116P 20cm 絶版品切

A collection of favorite stories about Jenny Linsky vol.1 (1973)

赤いマフラーがかわいい黒ネコジェニーは、小さくて、はにかみ屋さん。ジェニーのよき理解者である年寄り船長のキャプテン・ティンカーと暮らしている。登場するネコたちは、みんな個性的で楽しい。ジェニーは、キャットクラブに入会してネコの親友もできる。魅力的なさし絵が、シンプルな文章とマッチしている。

続編に「黒ネコジェニーのおはなし2」がある。



小犬のピピン

ローズマリ・サトクリフ / 作

猪熊 葉子 / 訳 小野 かおる / 絵

岩波書店 1995年 93サ

62P 22cm 1,300円

A little dog like you (1987)

怖がりの小犬ピピンは、優しい女の人に飼われていた。お互いにかけてがえのない存在で、二人のきずなはとても強いものだった。年月がたち、ピピンは病気で亡くなってしまふ。悲しみと寂しさの中、生まれ変わりを信じる飼い主。ピピンも天国の入口で、飼い主の元へ帰りたくと神様をお願いする。大切な人を失う悲しみと再生を願う美しく優しい物語。深い愛情が奇跡を生みだす。



こんどまたものがたり

ドナルド・ビセット / 作

木島 始 / 訳

岩波書店 新版 1992年 93ピ

80P 22cm 1,200円

「ことばの川」「やせた王さまとふとったコックさん」「まがりくねり道」など10の短編からなる本。

いろいろなことばたちが川を流れていき、海というものがたりの中へどんどん入っていく。文字が電話線の中を駆け抜けていったり、ブタが空を飛んだり、奇想天外なストーリーが子どもたちをわくわくさせてくれることだろう。



しずくの首飾り

ジョン・エイキン / 作

ヤン・ピアンコフスキー / 絵

猪熊 葉子 / 訳

岩波書店 1975年 93頁

150P 23cm 2,200円

A necklace of raindrops and other stories (1968)

北風が少女ローラにくれたふしぎな首飾りにまつわる表題作、空のかけらが入ったせいで飛べるようになったパイの話など、8編のファンタジーが収録された短編集。作者の自由奔放な想像力が生み出した、ユーモラスで豊かな空想の世界を、読者はたっぷりと楽しむことができる。影絵風の繊細で美しいさし絵も魅力的である。



シャーロットのおくりもの

E. B. ホワイト / 作

ガス・ウィリアムズ / 絵

さくま ゆみこ / 訳

あすなる書房 2001年 93頁

223P 21cm 1,500円

Charlotte's web (1952)

虚弱な体に生まれて始末されそうになった子ブタのウィルバーは、その家の女の子に救われ元気に成長する。ところが、自分がいずれハムになる運命だと知り嘆き悲しむ。クモのシャーロットは、彼を助けるためにある考えを思いつく。彼女が起こした奇跡とは？農場に住む個性豊かな動物たちがいきいきと描かれ物語を盛りあげる。愛すべきウィルバーと賢いシャーロットの友情が深く心に残る作品。



白い馬をさがせ
(子どもの文学・青い海シリーズ)
ディック・キング＝スミス / 作
谷口 由美子 / 訳
ラリー・ウィルクス / 絵
童話館出版 1998年 93キ
179P 23cm 1,400円
Find the white horse (1991)

のんびり屋で優しい犬のラパーと、頭の回転が速く知りたがり屋の猫のスクウィンタム。2匹は、迷子になったラパーの家を探しに旅立つ。ラパーの家は、白い馬が大きく描かれた丘のそば。途中で伝書鳩のケイティと犬のコリーンも加わり、3匹と1羽は力を出しあって進むのだが、高速道路で間違ったトラックに乗ってしまったり、ハラハラドキドキ。さて、無事ラパーの家にたどり着けるか。



たのしい川べ ヒキガエルの冒険
ケネス・グレアム / 作
石井 桃子 / 訳
福音館書店 1966年 E力
27P 19×26cm 743円

春の陽気に誘われて家を飛び出したモグラが出会ったのは気のいい川ネズミ。川遊びを楽しんだ二人は川辺の川ネズミの家で一緒に住むことに。わくわくする毎日を過ごすうち、森に住む賢いアナグマ氏と3人で、うぬぼれ屋で新し物好き、おまけに向こう見ずな友人ヒキガエルの悪い癖を何とかしようとするが……。美しい自然の中で繰り広げられる、ゆかいな動物たちの心温まるお話。



チム・ラビットのぼうけん

(チムとサムの本)

アリソン・アトリー / 作

石井 桃子 / 訳

中川 宗弥 / 画

童心社 1967年 93ア

190P 22cm 1,500円

子ウサギのチムは、ある日草刈り場ではさみを見つけた。このはさみを使うと何でも切れるとお父さんから教えてもらったチムは、両親のいない間に家中のものを片っ端から切り始める。しまいには自分の体の毛まで刈り取ってしまい……。「チム・ラビットとはさみ」のほか8話。どのお話も、好奇心いっぱい子どもたちの共感と呼ぶ。姉妹編「チム・ラビットのおともだち」もある。



天才コオロギニューヨークへ

ジョージ・セルデン / 作

ガス・ウィリアムズ / 絵

吉田 新一 / 訳

あすなる書房 2004年 93セ

215P 22cm 1,500円

The cricket in Times Square (1960)

思いがけず、田舎から大都会にやって来たコオロギのチェスター。地下鉄で売店の少年マリオと出会い、彼のペットとして店で暮らすことに……。友達になったネズミやネコの力を借りて、失敗や不運を乗り越え、街中の人々を魅了する才能を開花させる。動物同士、動物と少年、少年と周りの大人たちがお互いを思う優しさが随所にあふれ、表情豊かなさし絵と共に作品の魅力を深めている。



トウモロコシが実るころ

(文研ブックランド)

ドロシー・ローズ / 作

長滝谷 富貴子 / 訳 小泉 るみ子 / 絵

文研出版 2002年 93口

127P 22cm 1,200円

The corn grows ripe (1956)

中央アメリカに住みトウモロコシを主食とするマヤ族の村が舞台。マヤ族の少年タイガーは12歳。早起きが苦手で畑仕事の手伝いもままならない。ところが、父さんが畑で大けがをしたため、一人でジャングルを切り開きトウモロコシを育てることになる。厳しい自然を相手に、何度も弱音をはきたくなるが……。一つの仕事を成し遂げることで成長していく少年の心と、見守る家族の姿を描く。



年とったばあやのお話かご

(ファージョン作品集1)

エリナー・ファージョン / 作

石井 桃子 / 訳

岩波書店 1970年 93フ

182P 21cm 1,500円

The old nurse's stocking basket (1931)

つぎものかご(お話かご)の中には、大小さまざまに穴のあいた靴下がいっぱい。ばあやはいつも、それぞれの穴を繕う時間にぴったりの長さのお話を語ってくれる。それは子どもたちにとって、一日の終わりの一番楽しいひととき。ファージョンがばあやの口を通して語る美しくて不思議なお話の数々は、読者を聞き手の子どもたちと一緒に豊かな空想の世界へと導いてくれるだろう。



とびきりすてきなクリスマス

リー・キングマン / 作

バーバラ・クーニー / 絵

山内 玲子 / 訳

岩波書店 1990年 93キ

96P 22cm 1,200円

エルッキの家族は子どもが10人もいる大家族。クリスマスを間近にして、一番上の兄マッティの乗った船が行方不明になってしまう。安否を気づかい、悲しみに沈む家族。エルッキは、クリスマスにはいつも家族みんなにプレゼントを持って帰ってくれた兄の代わりをしようと、家族一人一人のためにプレゼントを考え、準備する。

家族を思う心が温かく伝わってくるクリスマス・ストーリー。



ドリトル先生アフリカゆき

(ドリトル先生物語全集 1)

ロフティング / 作

井伏 鱒二 / 訳

岩波書店 改版 1978年 93口

247P 23cm 1,600円

The story of Dr. Dolittle (1920)

イギリスの田舎に住むドリトル先生は、動物語がわかるお医者さん。もっぱら動物の患者ばかりやってくる。先生に動物語を教えたオウムのポリネシア、家政婦のアヒルのダブダブなど、たくさんの動物となかよく暮らしていた。先生の評判は全世界に広まり、アフリカからサルの疫病治療の頼みが届く。王子や海賊たちも登場する、奇抜で愉快なファンタジー。シリーズは全12巻。



百まいのドレス
エレナー・エステイス / 作
石井 桃子 / 訳
ルイス・スロボドキン / 絵
岩波書店 2006年 93頁
92P 22cm 1,600円
The hundred dresses (1944)

百まいのドレスを持っていると言い張るワンダは女の子たちのからかいの対象になっている。クラスメイトのマデラインは、友人のペギーがワンダをからかうことを、いけないと思いながら見ているだけだった。そのうちにワンダは引っ越してしまい……。関係を修復できないままに別れてしまった友を思う少女の気持ちが心に残る物語。「百まいのきもの」が改題改訳された作品である。



ペニーの日記読んじゃだめ
(チア・ブックス)
ロビン・クライン / 作
アン・ジェイムズ / 絵 安藤 紀子 / 訳
偕成社 1997年 93頁
125P 22cm 1,200円
Penny Pollard's diary (1983)

10歳のペニーが好きなものはウマ。嫌いなものは宿題、ピンクのドレス、お年寄り。そんなペニーが老人ホームで暮らすベタニーさんと友達になり、その知恵と経験を知り、81年という年月の重みに気づいていく。二人が心を通わせていく様子が、乱暴なようでいて実は繊細で心優しいペニーの書く日記という形で、いきいきと表現されている。ユニークなイラストや写真が効果的である。



ぼくの犬キング

(世界のどうわ傑作選)

サンドール＝S＝ウォーバーグ / 作

レオナード＝ウエイズガード / 絵

中村 妙子 / 訳

偕成社 改訂 1986年 93ウ

102P 22cm 1,400円

Growing time (1969)

ジェミーが小さい頃からずっと一緒に育った犬のキング。そのキングが死んでしまい、大切な存在を失った寂しさと、やり場のない悲しみにかられるジェミー。家族の温かい愛情と、自分が守らなければならない小さな命との出会いによって、立ち直っていく姿が描かれている。悲しむジェミーにかけられる家族からの言葉の一つ一つがジーンと胸にしみてくる。



町かどのジム

(子どもの文学・青い海シリーズ)

エリノア・ファージョン / 文

エドワード・アーディゾーニ / 絵

松岡 享子 / 訳

童話館出版 2001年 93フ

171P 22cm 1,400円

Jim at the corner (1958)

ジムはいつも町かどのポストのそばにあるミカン箱にこしかけて町の人に話しかけるおじいさん。かつて船乗りだったジムは世界中の海を航海したときの楽しく不思議なお話を子どもたちに聞かせてくれる。小さな男の子のデリーはそんなジムのことが大好きだった。ラストシーンで、ジムの80歳の誕生日にデリーが贈ったものとは？温かい感動で胸がいっぱいになる物語。



魔法使いのチョコレート・ケーキ
マーガレット・マーヒーお話集
(世界傑作童話シリーズ)
マーガレット・マーヒー / 作
石井 桃子 / 訳
シャーリー・ヒューズ / 画
福音館書店 1984年 93マ
173P 22cm 1,600円

魔法の腕が悪いばかりに、悪い魔法使いの汚名を着せられた一人ぼっちの魔法使い。お手製のケーキを町中の子どもたちにごちそうしようと招待するが、一人もやってこない。寂しくリンゴの木に肥料のケーキと水をやり続け、やがて深い森になり、いつしか森の魔法使いと呼ばれるようになった。夢と願いをかなえてくれる魔法のお話が8編と、詩が2編収められている。



ゆかいなホームーくん
(岩波少年文庫)
ロバート・マックロスキー / 作
石井 桃子 / 訳
岩波書店 新版 2000年 93マ
219P 18cm 640円
Homer Price (1943)

アメリカの田舎町に住むホームーくん。ペットのスカンクと力をあわせて強盗をつかまえたり、止まらなくなった機械のおかげでピンチに立たされたおじさんを救ったり、機転がきいて、機械いじりが大好きなホームーくんが大活躍。

どこかのんびりしていて、明るくユーモアたっぷりのお話が6つ収められている。



エーミルと探偵たち
(ケストナー少年文学全集 1)
ケストナー / 作
高橋 健二 / 訳
岩波書店 1962年 94ケ
212P 21cm 1,460円
Emil und die Detektive (1929)

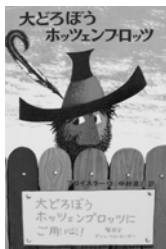
エーミルは旅の途中でお金を盗まれてしまう。出会った少年たちが泥棒の追跡に協力してくれることになった。探偵会議を開き、役目を分担し、暗号まで決めてゆく。はたして子どもたちだけで犯人を追いつめることができるだろうか。子どもの持つ知恵と勇気、友情がみごとに描かれ、児童向け探偵物語の代表作の一つと言えるだろう。2001年には岩波少年文庫より新訳も出版されている。



エーミルのいたずら 325番
アストリッド・リンドグレン / 作
ピヨン・ベリイ / 絵
さんぺい けいこ / 訳
岩波書店 1994年 94リ
59P 22cm 1,400円
Emils hyss nr 325 (1985)

農場に住んでいるエーミルは元気で心やさしい男の子。ある日家にたくさんいる八工を退治したいお母さんのために、八工とり紙を買うお金を稼ごうとある者に変装して……。何をしてもいたずらになってしまうエーミル。そのたびに作業小屋に閉じこめられ、作っているのは木彫りの人形。その325番目の人形を作ったときのお話。

ほかに「エーミルと小さなイーダ」などがある。



大どろぼうホツェンプロッツ
(新・世界の子どもの本)
オトフリート「プロイスラー」/作
中村 浩三 / 訳
偕成社 改訂 1990年 94 P
184 P 22cm 900 円
Der Räuber Hotzenplotz (1962)

カスパールのおばあさんが大事にしていた歌をかなでるコーヒーひきが、大どろぼうホツェンプロッツに盗まれた。大どろぼうをつかまえるために、カスパールと親友のゼッペルの冒険がはじまる。少しまぬけな大どろぼうに大魔法使い、妖精も登場してハラハラドキドキの物語の展開がとにかく面白い。ユーモアにあふれたさし絵も楽しい。この他に続編が2作ある。



おじいさんのマフラー
小さな心のスケッチ
ウルズラ・フックス / 作
かんざき いわお / 訳
金井塚 道栄 / 絵
さ・え・ら書房 1987年 94 P
127 P 22cm 1,100 円

収録されている16の短編は、いずれも10歳前後の子どもが主人公。お年寄りや外国からの転校生など自分とは違う者への反感やとまどい、親の勝手な理屈や言動への反発、相手に届けられなかったやさしさ……。どうにもならない現実の中で、子どもたちがふと出会うとまどいや悲しみ、いらだち、後悔、そして小さな喜びを、日常のちょっとした場面から切りとって見せてくれる。



おばあちゃん
ペーター＝ヘルトリング / 作
上田 真而子 / 訳
偕成社 1979年 94 へ
170 P 20cm 1,000 円
Oma (1975)

交通事故で両親をなくした5歳のカレは、67歳のおばあちゃんにひきとられた。おばあちゃんは「さあ、元気をだして、自分が年寄りだなどと思わないことにしよう。わたしとカレと、力をあわせれば、なんとかやっつけていけるにちがいない」と大奮闘。その中でカレはたくましく成長し、やがて二人は家族として強く結びついていく。

人間の老いを、独特のユーモアでわかりやすく描いた作品。



親指姫 愛蔵版
(アンデルセンの童話 1)
H・C・アンデルセン / 作
大塚勇三 / 編・訳
イブ・スパング・オルセン / 画
福音館書店 1992年 94 ア
323 P 26cm 4,000 円

世界中の人々に愛されているデンマークの童話作家アンデルセンのたくさんの作品の中から選ばれた童話集。「親指姫」「皇帝の新しい服」「野の白鳥」など18編を収録。どれも喜びと悲しみ、生と死、人生の幸福や真実についていきいきと語られている。同じデンマークの画家オルセンがお話の世界にふさわしい見事なさし絵をつけている。全4冊シリーズ。



キングの最高の日

ウルフ・スタルク / 作

遠藤 美紀 / 訳 江川 智穂 / 絵

偕成社 2000年 94ス

47P 22cm 絶版品切

Hunden som log (1995)

大きくて強くて、子どもたちの英雄である犬のキング。その死期が迫っていることを知ったヨッヨと4人の仲間たちは、キングが望むことや夢見ることを全部させてやろうと計画する。愛するものの永遠の別れを目前にして、悲しみのなか心を一つにして、最高の一日を贈るために力を合わせる子どもたち。その一所懸命な姿と楽しい思いつきの数々が、読者の心にも温かく残るだろう。



子どもに語るグリムの昔話 1

グリム / 著

佐々 梨代子・野村 滋 / 訳

こぐま社 1990年 94グ

187P 18cm 1,600円

世界中の子どもたちに親しまれているグリムの昔話。この本はお話の語り手とドイツ文学者による共訳で、言葉や文章が耳で聞いてわかりやすく、中学年以上の子どもが自分で読むのにも適している。手にとりやすいサイズで装丁も美しく、各お話の扉を飾るドーラ・ポルスターのさし絵も魅力的。第1巻には「おおかみと七ひきの子やぎ」「ホレおばさん」など12編を収める。全6巻。



ジム・ボタンの機関車大旅行

(ジム・ボタンの冒険 1)

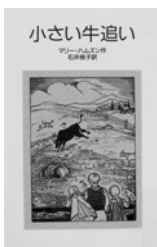
ミヒャエル・エンデ / 作

上田 真而子 / 訳

岩波書店 1986年 94頁
348P 22cm 1,800円

Jim Knopf und Lukas der
Lokomotivführer (1983)

フクラム国に、ある日不思議な小包が届いた。中にはなんと赤ん坊。その子はジムと名付けられ、大きくなると機関士ルーカスと共に機関車エマに乗って冒険の旅に出る。マンダラ国に着いた二人は、竜にさらわれたリーシー姫を助けに行くのだが、そこでジムの出生の謎につながる手がかりを得る。奇想天外な国や個性的なキャラクターが次々と登場する、ハラハラドキドキの冒険ファンタジー。



小さい牛追い

(岩波少年文庫)

マリー・ハムズン / 作

石井 桃子 / 訳

岩波書店 改版 1990年 94頁
268P 18cm 680円

A Norwegian farm (1933)

ノルウェーの小さな農場の4人兄妹の物語。上の二人の男の子は、10歳のオーラと8歳のエイナル。この夏、山の牧場で初めて牛追いをさせてもらう。大事な牛を見失ったり、山の精のような女の子に出会ったり……。妹たちや両親とのふれあいも素朴に描かれていて楽しい。働いてお金をもらうという責任と喜び、自然の中での成長が描かれていて、心温まる作品である。



小さい魔女

(新しい世界の童話シリーズ)

オトフリート＝プロイスラー／著

大塚 勇三／訳 ウィニー＝ガイラー／画

学研 1965年 94頁

190P 23cm 900円

Die kleine Hexe (1957)

小さい魔女はワルブルギスの夜に、こっそりと踊っているのがみつかって、大きい魔女からひどい罰を受ける。魔女のおかしらに、1年後良い魔女になるための試験に合格すれば仲間に入ってもいいと言われる。賢いカラスに助けられ、小さい魔女は魔法をどんどん覚えて、大きい魔女たちに挑む。

勝ち気だけれど心優しい小さい魔女が繰り広げる楽しい物語。



小さなジョセフィーン

(北国の虹ものがたり 1)

マリア・グリーペ／作

大久保 貞子／訳

富山房 1980年 94頁

226P 21cm 絶版品切

Josefin (1961)

ジョセフィーンは、牧師館に住む6歳の女の子。両親はとても忙しく、兄弟たちは年が離れているので遊び相手にならない。多感な少女ジョセフィーンは、ふとしたことで家出をしてみたり、魔女のようなおばあさんとなかよくなったり、天使の川でおぼれておじいさん神様に助けられたりする。「ヒューゴとジョセフィーン」「森の子ヒューゴ」の三部作。

空 白



ティナのおるすばん

イリーナ・コルシュノフ / 作

石川 素子 / 訳 矢島 真澄 / 絵

徳間書店 2002年 94コ

204P 22cm 1,500円

Eigentlich war es ein schöner Tag (1977)

ティナは、ドイツに住む8歳の女の子。一人きりで、丸一日お留守番することになったティナだが、朝ねぼうはするし、いたずらっ子にからまれたりする。学校では友達のパンを盗んだと疑われて、最悪なことばかり起きてしまう。

一日のお留守番で、今まで気づかなかったことがわかって、大きく成長したティナの姿が見られる。



長くつ下のピッピ 世界一つよい女の子
(リンドグレン作品集1)

リンドグレン / 作 大塚 勇三 / 訳
桜井 誠 / 絵

岩波書店 改版 1988年 94リ

262P 22cm 1,700円

Pippi Långstrump (1945)

ピッピは、赤毛をぎゅっと縛って、左右別々の長い靴下を履き、家族はサルとウマ。世界一力持ちで、一人で自分の思うままに暮らす元気な女の子。そんなピッピに憧れ、うらやましく思う人も多いだろう。思いもかけない出来事が起きてても、勇気と仲間を大切にする気持ちで問題を解決していく、楽しくて爽快なお話。

続編に「ピッピ船にのる」「ピッピ南の島へ」がある。



火のくつと風のサンダル
(こどもの文学青い海シリーズ)

ウルズラ・ウェルフェル / 作

関 楠生 / 訳 久米 宏一 / 絵

童話館出版 1997年 94ヴ

162P 23cm 1,400円

Feuerschuh und Windsandale (1961)

チビでデブで貧乏なチムの望みは、違う自分になること。7歳の誕生日に両親から夏休みの大冒険をプレゼントされて、靴なおしの父親と一緒に旅に出かけた。チムが不満や困難にぶつかると、お話し好きの父親は愉快で興味深い話をして、チムを導いてくれるのであった。旅の中でさまざまな経験をして成長していくチムと、チムを温かく見守る両親の姿が描かれている。



星のひとみ

(岩波ものがたりの本)

サカリヤス・トペリウス / 作

万沢 まき / 訳 丸木 俊 / 絵

岩波書店 1965年 94ト

219P 23cm 絶版品切

Läsning för barn (1865)

フィンランドの森の小鳥がうたった。神の恵みや大自然の美しさ、まごころや、勇気や、やさしさを。こんな序文でトペリウスは子どもたちに語りかける。星のように輝く瞳で、人の心を見ることができると女の子の話、百年ぶりに目を覚ました霜の巨人と子どもたちのお話など、北欧の自然と古い伝説と信仰心がとけあい、そのなかで生きる人々が力強く描かれた物語が11編収められている。



ものいうなべ デンマークのたのしいお話

(岩波おはなしの本)

メリー・C・ハッチ / 文

渡辺 茂男 / 訳 富山 妙子 / 絵

岩波書店 1964年 94八

158P 23cm 1,800円

貧しいお百姓が大事な雌牛を古ぼけた鉄なべと取りかえてしまい、おかみさんはカンカン。ところがこのおなべ、突然しゃべりだし、「わたしは、はねてく、とんでいく」と家を飛び出すと金持ちのところへ……。表題作「ものいうなべ」のほか、「まぬけなむすこ」「なんでも信ずるおひめさま」など8編を収録。ユーモアにあふれ明るくのんびりとしたデンマークの昔話集。



やまかし村の子どもたち

(リンドグレン作品集 4)

リンドグレン / 作

大塚 勇三 / 訳

岩波書店 1965年 94頁

196P 22cm 1,900円

Alla vi barn i Bullerbyn (1947)

やまかし村には、家がたったの3軒。子どもは全部で6人だけ。スウェーデンの農村の大自然の中でのびのびと育つ子どもたちの様子を、リーサの目を通して、やさしく明るくいきいきと描いている。リーサが7歳の誕生日に自分の部屋をもらった話、夜に干し草の中で寝た話など、主人公たちの体験を、読者も一緒に楽しむことができるだろう。

空 白



おそうじをおぼえながらいリスのゲルランゲ
(世界傑作童話シリーズ)

ジャンヌ・ロッシュ・マゾン / 作
山口 智子 / やく 堀内 誠一 / え
福音館書店 1973年 95口
90P 22cm 1,500円

L'écureuil qui ne voulait pas
apprendre à balayer (1930)

おそうじぎらいがもとで家を追い出されたリスのゲルランゲは、オオカミに食べられそうになっても「おそうじだけはおぼえたくありません」と言う。意地っばりのゲルランゲに他の動物たちが巻き込まれていくお話が楽しい。さて、ゲルランゲはおそうじをおぼえられるかな？動物たちが明るくいきいきと描かれている絵がいい。

続編に「けっこんしながらいリスのゲルランゲ」がある。



みどりのゆび
(岩波少年文庫)

モーリス・ドリュオン / 作
安東 次男 / 訳
岩波書店 新版 2002年 95ド
215P 18cm 640円

Titou, les puces vertes (1968)

チトは、自分がふれる物すべてに草や花を咲かせる「みどりのゆび」を持っていることを知り、刑務所や貧しい人たちの住む小屋や病院を次々と花でいっぱいにする。ある日、父親が兵器商人であることを知ったチトは、戦争をやめさせようと「みどりのゆび」を使って……。空想的な世界の中で、環境や平和、人々の幸福など大切なことを、心にしみ込むように伝えてくれる一冊。



きつねものがたり

(世界傑作童話シリーズ)

ヨセフ・ラダノサク・エ

内田 莉沙子 / やく

福音館書店 1966年 98ラ

163P 22cm 1,500円

0 chytré kmotřr lišce (1937)

森番の子どもにお話を読んでもらいながら育ったきつねは、ついに文字を覚え、人間の言葉が話せるようになる。やがて、自由を求めて森番の家を出たきつねは、食べ物を手に入れるため、お話で聞いた通りにいろいろやってみる。なかなかうまくいかないが決してへこたれないきつねと人間との知恵比べがおもしろい。



長い長いお医者さんの話

(岩波少年文庫)

カレル・チャペック / 作

中野 好夫 / 訳

岩波書店 新版 2000年 98チ

360P 18cm 720円

Devatero pohádek karla čapka (1931)

山で魔法の修行をしていた魔法使いのマジヤーシュは、ふとしたはずみでウメの種をのどにつまらせる。集まった4人の医者は、今まで治療した不思議な患者(妖精やカッパ)の話に夢中。そしてようやく始まる大手術の行方は？

夢と現実を巧みに結びつけた愉快でしゃれた、おとぎ話集。全9編。



まほうの馬 ロシアのたのしいお話
(岩波おはなしの本)

A.トルストイ/文 M.プラトフ/文
高杉 一郎・田中 泰子/訳

E・ラチョフ/絵

岩波書店 1964年 98ト
164P 23cm 1,800円

(1961)

ロシアで古い昔から受け継がれている12編の民話集。まわりからいつもからかわれている末っ子のイワンは、ある日魔法の馬を助けたことがきっかけで、美しいエレナ姫と結婚することとなった。

どのお話も、正直で人の幸せを願う主人公が幸せをつかむもので、知恵と心の美しさが語られている。ラチョフの美しい絵が、長い間語り継がれてきた民話の雰囲気を一層引き立てている。



森は生きている

サムイル・マルシャーク/作

湯浅 芳子/訳

岩波書店 1972年 98マ
254P 23cm 1,900円

大晦日の晩、わがままな女王が春に咲くマツユキソウを持ってくるように命じ、褒美の金貨に目がくらんだ老婆はママ娘を夜の森へマツユキソウ探しに行かせた。暗い吹雪の森で、ママ娘は1月から12月までの12人の月の精たちに出会い不思議な体験をする。スラブの伝説をもとにした戯曲で、詩人である作者によって書かれた優雅でありながらユーモアにあふれた会話が見事な作品。



絵本クマのプーさん

(大型絵本)

A・A・ミルン / ぶん

E・H・シェパード / え

石井 桃子 / やく

岩波書店 1968年 Eク

78P 26cm 1,300円

The Pooh story book (1967)

クマのプーさんはクリストファー・ロビンのぬいぐるみ。森の自然の中で、コブタやロバのイーヨーたちとのんびり暮らしている。大まじめに的はずれなやりとりをするプーさんたちの様子に、思わず笑いを誘われる楽しい絵本。プーさんがイーヨーのために家を建ててあげる話、コブタが水に囲まれてしまう話、プーさんが新しい遊びを発明する話の3編が収められている。



からす たろう

やしま たろう / 文・絵

偕成社 1979年 Eカ

35P 31cm 1,800円

Crow boy (1955)

日の出と共に家を出、日没の頃帰り着く。そんな山奥から六年間一日も休まず通学している少年がいた。字もろくに書けず、友達からばかにされ「ちび」と呼ばれ、いつも一人ぼっちだった。しかし、六年生のとき新しく担任になった先生は、ちびが自然に対する広い知識や観察力、豊かな感性を持っていることを見いだす。その年の学芸会、全校生徒と村人たちの前で舞台上に立ったちびは……。



木
(こどものとも傑作集)
佐藤 忠良 / 画
木島 始 / 文
福音館書店 2005年 Eキ
29P 27cm 800円

空へ向かって四方八方へと大きく広がる木の枝。ゴツゴツと盛り上がった木のこぶこぶ。一本の大木を根っから幹・枝・若葉へと子どもの目線で追うように、力強いデッサンで描いている。それに詩人木島始が、言葉で木に生命を吹き込んでいる。圧巻は4ページ分広げた画面いっぱいに描かれた大木の絵。木によじ登りながら見上げたら、きっとこんな感じだろうと思わせる絵である。



クリスマスのものがたり
(世界傑作絵本シリーズ)
フェリクス・ホフマン / さく
しょうの こうきち / やく
福音館書店 1975年 Eク
32P 22cm 1,300円
The Nativity book (1975)

クリスマスを題材にした絵本が数多く出版されている中、これは聖書に書かれたクリスマスの由来を、信者ではない読者にもわかりやすくきちんと伝えてくれる一冊である。キリスト生誕の様子が、マリヤとヨセフの信心深さや3人の賢者を含む人々の喜びと共に素朴に描かれている。見返し一面に並べられた版画の子ヒツジをはじめ、画家ホフマンの思いがたっぷり込められた絵もすばらしい。



クリスマスまであと九日
セシのポサダの日
マリー・ホール・エッツ / 作・画
アウロラ・ラバスティダ / 作
たなべ いすず / 訳
富山房 1974年 E ク
46 P 29cm 1,400 円
Nine days to Christmas (1959)

セシはメキシコに住む女の子。今年のクリスマスには、待ちに待った初めてのポサダのお祝いの日がある。ポサダを迎える子はピニャタを買ってもらい、お菓子を詰めて庭につるし、それをみんなで割ってお祝いしてもらおう。けれども、セシは自分が選んだ大きな星のピニャタを割られたくなくて……。セシの心の成長とポサダの日が丁寧に描かれた、ひと味違うクリスマスの絵本。



ことばのこぼこ
和田誠 / さく・え
瑞雲舎 1995年 E コ
40 P 31cm 1,748 円

「いちわでもにわとり にどたべてもさんどいっち さんにんいでもしじん よじにきてもごじら……」「こねこ・にわとりとわに・たいふうごうごうふいた」楽しいかぞえうたや回文など、とびきり楽しいことば遊びがどのページにもつまっている。ページを開き声を出して読めば、こぼこから飛び出してくるリズムカルなことば。それにぴったりのゆかいな絵がまたいいユニークな絵本。



鹿よおれの兄弟よ
(世界傑作絵本シリーズ)
神沢 利子 / 作
G. D. パヴリーシン / 絵
福音館書店 2004年 Eシ
36P 30×31cm 1,700円

まず、絵がすばらしい。東洋的な細密画が、見る者をシベリアの神秘的な森へとぐいぐい引き込んでゆく。「おれ」という一人称で語られる文章は、力強さと共に詩を奏でているようなりズムがあり、心をゆさぶる。鹿を狩って暮らす猟師の生きとし生けるものへの感謝の思いが全編にあふれ、食べて食べられることによって命はつながっていくということを改めて感じさせてくれる。



12の月たち スラブみんわ
(児童図書館・絵本の部屋)
サムエル・マルシャーク / さいわ
ダイアン・スタンレー / え
松川 真弓 / やく
ほるぶ出版 1986年 Eジ
32P 32cm 1,400円

1月の大雪の日、意地悪なまま母と姉むすめにマツユキソウの花を探してくるように言われたむすめは、雪の森へ出かける。そして、12月の精たちのたき火を見つけ、3月の精がマツユキソウを咲かせてくれるが……。マルシャークの「森は生きている」でも知られたボヘミア地方の民話。12の月たちの衣装の文様も美しく、物語の世界を豊かに描きだしている。



しろいうさぎとくろいうさぎ
(世界傑作絵本シリーズ)
ガス・ウィリアムズ / ぶん・え
まつおか きょうこ / やく
福音館書店 1965年 Eシ
30P 31cm 1,100円
The rabbits' wedding (1958)

広い森に住む小さなしろいうさぎとくろいうさぎ。2匹は毎日楽しく遊んでいたが、ある時くろいうさぎは悲しそうな顔をする。

「どうしたの？」しろいうさぎが聞くと、くろいうさぎは願いごとを伝える。「いつまでも君と一緒にいられますように」

おさえた色調の中、ふんわりと描かれたしろいうさぎとくろいうさぎが愛らしく、タンポポの鮮やかな黄色が明るい印象を残す。



すばらしいとき
(世界傑作絵本シリーズ)
ロバート・マックロスキー / ぶんとえ
わたなべ しげお / やく
福音館書店 1978年 Eス
61P 31cm 1,500円
Time of wonder (1957)

早春から夏の終わりまでを小島で過ごそうと休暇でやってきた一家の「すばらしいとき」を、やわらかな色調の水彩画と語りかけるような美しい文が描きだしている。豊かな自然の移りかわりの中で磯遊びやボート遊びを楽しむ子どもたち。岩礁では母親アザラシが赤ちゃんアザラシをあやす姿も見られる。嵐の襲来がドラマチックに物語を盛り上げる。子どもたちに出会わせたい世界である。



せかいいちうつくしいぼくの村
(えほんはともだち)

小林 豊 / 作・絵

ポプラ社 1995年 Eセ

39P 22×29cm 1,200円

春には草花が咲き乱れ、夏には果物が豊かに実るバグマン村。ある夏、戦争へ行った兄の代わりにヤモは父を手伝い市場へ果物を売りに出かける。豊かな自然や穏やかな日常が描かれている。しかしこのアフガニスタンの美しい村は、その年の冬に戦争で破壊されてしまった。作者が旅した中東での体験をもとに、平和の大切さを静かに語りかける絵本。



たくさんのお月さま

ジェームズ・サーバー / 文

ルイス・スロボドキン / 絵

ながわ ちひろ / 訳

徳間書店 1994年 Eタ

48P 26cm 1,600円

Many moons (1943)

病気になってしまったお姫さまに、お月さまがもらえればすぐ治ると言われた王様。大臣、魔法使い、数学者を呼んで月を取ってくるように命じるが、誰もいい案が出せない。最後に呼ばれた道化師が出した答えとは？ 結末のお姫さまのすてきな発想に、思わずうならされるかも。現代アメリカのユーモア作家ジェームズ・サーバーが書いた初めての子どものための物語。



旅の絵本〔1〕

安野光雅 / 作

福音館書店 1977年 Eタ

48P 26cm 1,300円

繊細な筆づかいで描かれたヨーロッパの町並みや自然の風景、絵の中を一緒に旅していくように楽しめる、字のない絵本である。荷車をひくウシや原っぱで遊ぶ子どもたち、にぎやかな市場の様子などが細かく描かれている。見開きページいっぱいには描きこまれた絵のすみずみまでをじっくり味わいたい。その中にさりげなく登場する童話の主人公や名画の一場面に出会う楽しみもある。続編あり。



月夜のみみずく

ジェイン＝ヨーレン / 詩

くどうなおこ / 訳

ジョン＝ショーエンヘル / 絵

偕成社 1989年 Eツ

32P 29cm 1,200円

Owl moon (1987)

冬の夜更け、みなが寝静まった頃、とうさんとわたしはみみずくを探しに出かけた。わしみみずくは静かに探さなくてはいけない。寒いのを我慢して、暗いのも平気な顔をして、月夜の雪の森を歩き続けた。やっと出会えた時、少女とみみずくはじっと見つめあうのだった。大自然と触れあう少女の心情が感動的に描かれた詩の絵本。力強いみみずくの姿が印象に残る。



どうぶつえんガイド

よんでたのしい! 読んでたのしい!

あべ 弘士 / さく・え

なかの まさたか / デザイン

福音館書店 1995年 Eド

88P 26cm 1,600円

ラクダのこぶの秘密、いろんなことができるゾウの鼻……。ページをめくるたびに飛び出してくる動物たちの情報。どれもこれも知らなかったことばかり。それもそのはず、著者は旭山動物園の元飼育係。ライオンやキリンはもちろん、スズメやヒトまで43種の動物が登場する大人も子どもも楽しめる一冊。愉快的イラストとわかりやすい書き込みで、動物園に行きたくなること間違いなし。



時計づくりのジョニー

エドワード・アーディゾーニ / 作

あべ きみこ / 訳

こぐま社 1998年 Eト

48P 26cm 1,300円

Johnny the clockmaker (1960)

ジョニーは「大時計のつくりかた」という本がお気に入り、とうとう自分で大時計を作ることにした。誰もが作れるはずがないと、いってばかにするが、友達の女の子スザンナだけは励ましてくれた。そして、頑張り抜いたジョニーは、すばらしい大時計を完成させた。

大きなことを成し遂げ夢をかなえた達成感を、ジョニーと一緒に味わうことができるお話である。



野うまになったむすめ
ポール・ゴープル / さく
じんぐう てるお / やく
ほるぶ出版 1980年 Eノ
32P 26cm 絶版品切
The girl who loved wild horses (1978)

遊牧民の村に馬の気持ちがわかる娘がいた。ある日、娘が馬たちと草原で過ごしていると急な嵐がやってきて、雷に驚いた馬たちは娘を背中に乗せたままどこまでも走り続けた。迷子になってしまった娘と馬たちだが、野馬のかしらである美しくたくましい雄馬と出会って、そこで暮らすこととなった……。アメリカ先住民族の娘が貫いた鮮烈な愛を描いている。色鮮やかな絵が美しい作品。



八郎
(日本傑作絵本シリーズ)
斎藤 隆介 / 作
瀧平 二郎 / 画
福音館書店 1967年 E八
32P 31cm 1,100円

八郎は、大木より高く、頭には鳥の巣がいっぱい、雲は胸のまわりにたかるほどの大男。ある日、海辺で泣く小さい男の子の話聞いた八郎は、村を津波から守るため、山を海へ運び、ついには自ら海に沈んでいく。

力強い版画と、リズムカルな方言で、秋田県・男鹿半島に抱かれた八郎瀧の伝説を描いている。



はるかな湖

アレン・セイ / 作・絵

椎名 誠 / 訳

徳間書店 1999年 E八

32P 24×26cm 1,600円

The lost Lake (1989)

夏休みのある土曜日、父さんとぼくは重いリュックを背負い、秘密の湖を探すキャンプに出かけた。いつも仕事に追われ無口な父にも、幼い日に自分の父親と見つけた秘密の湖があったのだ。

暗やみにたき火を燃やし、星を眺め、言葉をかわし……。父と息子のきずなが次第にむすばれていく様子に感動をおぼえる。おさえられたブルーの色彩も、心をおだやかにしてくれる作品である。



春のピクニック

(のばらの村のものがたり)

ジル・パークレム / 作

岸田 衿子 / 訳

講談社 新装版 1996年 E八

32P 18cm 絶版品切

Brambly hedge: spring story (1980)

小川に沿って続くのばらの茂みの中に、かわいいネズミたちが住むのばらの村がある。みんな働き者で、お祭りやパーティーが大好き。子ネズミの誕生日のお祝いに、村のネズミたちはピクニックに行くことにした。バスケットにごちそうをつめて、色とりどりの花が咲き乱れる丘へと出発する。明るく楽しい絵は細かく丁寧に描かれていて、見飽きることがない。シリーズがあり愛蔵版もある。



平和の種をまく ポスニアの少女エミナ
(いのちのえほん)

大塚 敦子 / 写真・文

岩崎書店 2006年 E へ

43 P 26cm 1,500 円

1992年におきたボスニア紛争では、それまで隣りあって暮らしていた3民族が敵同士となって戦い、多くの犠牲者が出た。その最中に生まれた少女エミナが主人公の写真絵本である。違う民族の少女と友達になったエミナは、どうしたら戦いを防げるのかと問いかける。エミナの問いは他人事ではない。この問いについて誰もが向きあってほしい。



ほしになつたりゅうのきば 中国民話
(日本傑作絵本シリーズ)

君島 久子 / 再話

赤羽 末吉 / 画

福音館書店 1976年 E ホ

48 P 24×31cm 1,200 円

農家の老夫婦に念願の男子が授かった。山頂から落ちてきた大石が割れて生まれた。名前をサン(英雄)とつける。北海と南山に住む竜が暴れて天が破れ、天候不順が人々を困らせる。この難儀を救うため、サンは苦難を乗り越えクマ王の白姫の協力を得て天をつくり、人は安住を得る。中国のスケールの大きい民話。



満月をまって

メアリー・リン・レイ / ぶん

バーバラ・クーニー / え

掛川 恭子 / やく

あすなる書房 2000年 Eマ

32P 29cm 1,400円

Basket moon (1999)

山あいの村でかごを作る人たち。9歳になった「ぼく」は、初めて父さんと一緒に町へかごを売りに行く。町の人たちに「おんぼろかご」とののしられて傷ついた少年に、風の呼ぶ声が聞こえてきて……。

クーニーの美しい絵と共に、誠実に静かにかごを作り続ける人たちの営みが描き出される。明るい満月が照らす世界は、限りなく感動的だ。



リスのバナシ

リダ・フォシェ / 文

フェードル・ロジャンコフスキー / 絵

いしい ももこ / 訳編

童話館出版 2003年 Eリ

32P 27cm 1,500円

Panache l'écureuil (1934)

リスの一家が森の中で幸せに暮らしていた。バナシは、4匹の子リスたちの中で一番のいたずら坊主。ある日バナシは、遊んでいるとき鉄砲を持った森の番人に出くわし、捕まってしまう。

大自然の中で生きる動物たちの悲喜こもごもを、ロジャンコフスキーの美しい絵と共に追体験できる。「かわせみのマルタン」「野うさぎのフルー」など、ほかに4作ある。

書名索引

<あ>

あたまをつかった小さなおばあさん……………18

<い>

イギリスとアイルランドの昔話……………18

<え>

絵ときソウの時間とネズミの時間……………3

絵本クマのプーさん……………47

エーミールと探偵たち……………34

エーミールのいたずら325番……………34

<お>

大どろぼうホツツェンプロッツ……………35

おじいさんのマフラー……………35

おすのつばにすんでいたおばあさん……………19

オズの魔法使い……………19

おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ……………44

おばあちゃん……………36

おばあちゃんのすてきなおくりもの……………20

親指姫……………36

<か>

風のまにまに号の旅……………20

かってなカラスのおおてがら……………21

からす たろう……………47

がんばれヘンリーくん……………21

<き>

木……………48

きかんぼのちいちゃんもうち

(その1・その2・その3)……………22

きつねものがたり……………45

キングの最高の日……………37

<<>>

グッディさんとしあわせの国……………22

くまさん……………6

くまのテディ・ロビンソン……………23

くまのパティントン……………23

クリスマスのものがたり……………48

クリスマスまであと九日……………49

車のいろは空のいろ 1……………8

グレイ・ラビットのおはなし……………24

黒ねこサンゴロウ1……………9

黒ネコジェニーのおはなし1……………24

クワガタクワジ物語……………9

<こ>

小犬のビビン……………25

ことばのこぼこ……………49

子どもに語るアジアの昔話(1・2)……………17

子どもに語るグリムの昔話……………17

17子どもに語る日本の昔話(1・2・3)……………10

こんぎつね……………10

こんどまたものがたり……………25

<さ>

三月ひなのつき……………11

<し>

鹿よおれの兄弟よ……………50

しずくの首飾り……………26

ジム・ボタンの機関車大旅行……………38

しゃべる詩あそび詩きこえる詩……………6

シャーロットのおくりもの……………26

12の月たち……………50

しろいうさぎとくろいうさぎ……………51

白い馬をさがせ……………27

じろはったん……………11

<す>

すばらしいとき 51

<せ>

星座を見つけよう 3

せかいいちうつくしいぼくの村 52

世界のむかしばなし 5

セロひきのゴーシュ 12

<そ>

それほんとう? 12

<た>

ダーウィンのミミズの研究 4

たくさんのお月さま 52

ただずんじゃん 7

たのしい川べ 27

旅の絵本〔1〕 53

だまされたトッケビ 17

ダンゴムシ 4

<ち>

小さい牛追 38

小さい魔女 39

小さなジョセフィン 39

チム・ラビットのぼうげん 28

<つ>

月夜のみみずく 53

<て>

ティナのおるすばん 40

天オコオロギニューヨークへ 28

てんとむし 7

<と>

どうぶつえんガイド 54

トウモロコシが実るころ 29

時計つくりのジョニー 54

年とったばあやのお話かご 29

とびきりすてきなクリスマス 30

ともだちは海のおい 13

ドリトル先生アフリカゆき 30

<な>

長い長いお医者さんの話 45

ながいながいペンギンの話 14

長くつ下のピッピ 41

<ね>

猫は生きている 14

<の>

野うまになったむすめ 55

<は>

八郎 55

はるかな湖 56

春のピクニック 56

ハンカチの上の花畑 15

<ひ>

火のくつと風のサンダル 41

百まいのドレス 31

びょうきのほん(1・2・3) 5

<ふ>

ふしぎな木の実の料理法 15

<へ>

平和の種をまく 57

ベニーの日記読んじゃだめ 31

<ほ>

ぼくの犬キング 32

ほしになったりゅうのきば 57

星のひとみ 42

<ま>

魔女の宅急便 16

町かどのジム 32

魔法使いのチョコレート・ケーキ 33

まほうの馬 46

満月をまって 58

<み>

みどりのゆび 44

<も>

ものいうなべ 42

森は生きている 46

<や>

やかまし村の子どもたち 43

<ゆ>

ゆかいなホーマーくん 33

<り>

りすのパナシ 58

<わ>

わたしと小鳥とすずと 8

わらしべ長者 16

著者名等索引

<あ>

赤羽 末吉 16, 57
 朝倉 撰 11
 ア - ディゾ - ニ, エドワ - ド 32, 54
 アトリ -, アリソン 24, 28
 あべ きみこ 54
 あべ 弘士 3, 54
 アペリル, エスタ - 24
 あまん きみこ 8
 安房 直子 15
 アンデルセン, H・C 36
 安東 次男 44
 安藤 紀子 31
 安野 光雅 53

<い>

飯野 和好 6
 石井 桃子 11, 18, 24, 27, 28, 29, 31, 33, 38, 47, 58
 石川 素子 40
 稲田 和子 10
 いぬい とみこ 14
 猪熊 葉子 21, 25, 26
 井伏 鱒二 30
 今森 光彦 4
 岩渕 慶造 15

<う>

ウィリアム, ガース 26, 28, 51
 ウィルクス, ラリ - 27
 ウェイスガレード, レオナ - ド 32
 上田 真而子 36, 38
 ウェルフェル, ウルズラ 41
 ウォ - バ - グ, サンド - ル = S 32
 内田 莉沙子 45

<え>

エイキン, ジョーン 21, 26

エインズワ - ス, ル - ス 22
 江川 知穂 37
 エステイス, エレナ - 31
 エッツ, マリ - ・ ホ - ル 49
 エドワ - ス, ドロシ - 22
 エンデ, ミヒヤエル 38
 遠藤 美紀 37

<お>

大久保 貞子 39
 太田 大八 5
 大塚 敦子 57
 大塚 勇三 36, 39, 40, 41, 43
 大友 康夫 14
 岡田 淳 15
 小野 かおる 25
 オルセン, イブ・スワング 36

<か>

ガイラ -, ウィニ - 39
 掛川 恭子 20, 58
 梶山 俊夫 11
 角野 栄子 16
 金井塚 満栄 35
 金子 みずゞ 8
 神谷 丹路 17
 川崎 洋 7
 かんざき いわお 35
 神沢 利子 50
 神鳥 統夫 20

<き>

岸田 裕子 56
 木島 始 25, 48
 北田 卓史 8
 木下 順二 16
 君島 久子 57

キング=スミス,ディック	27	シェパード, E.H.	47
ギングマン, リー	30	しょうの こうきち	48
<<>		ショーエンヘル, ジョン	53
草下 英明	3	じんぐう てるお	55
工藤 直子	13,53	<す>	
ク-ニ-,バ-バラ	30,58	杉田 比呂美	4
久米 宏一	41	鈴木 まもる	9
クライン, ロビン	31	スタルク, ウルフ	37
クリアリ-,ペバリイ	21	スタンレー, ダイアン	50
クリ-ベ, マリア	39	スティーブンス, カーラ	20
グリム	37	スロボドキン, ルイス	31,52
グレ-アム, ケネス	27	<せ>	
<か>		セイ, アレン	56
ケストナ	34	関 楠生	41
<こ>		瀬田 貞二	5
小泉 るみ子	29	セルデン, ジョージ	28
河本 祥子	22	<た>	
ゴッデン, ルーマー	19	高杉 一郎	46
小林 豊	52	高橋 健二	34
ゴープル, ボール	55	瀧平 二郎	55
コルシュノフ, イリーナ	40	竹下 文子	9
<さ>		田島 征三	14
斎藤 隆介	55	田中 泰子	46
早乙女 勝元	14	たなべ いすず	49
酒井 駒子	22	谷口 由美子	27
阪田 寛夫	7	ダーリング, ルイス	21
さくま ゆみこ	26	<ち>	
桜井 誠	41	チャベック, カレル	45
佐々 梨代子	37	長 新太	12, 13
佐藤 忠良	48	チョン スンガク	17
サトクリフ, ローズマリ	25	<つ>	
サーバー, ジェームズ	52	筒井 悦子	10
さんべい けいこ	34	坪井 郁美	23
<し>			
椎名 誠	56		
ジェイムズ, アン	31		

<て>	B B	20
デンスロウ, W・W	ヒューズ, シャーリー	33
<と>	<ふ>	
トベリウス, サカリアス	ファージョン, エリナー	29, 32
富山 妙子	フォシェ, リダ	58
ドリュオン, モーリス	フォートナム, ベギー	23
トルストイ・A	フックス, ウルズラ	35
<な>	ブラートフ, M	46
中川 宗弥	ブレイク, クエンティン	21
なががわ ちひろ	プロイスラー, オトフリート	35, 39
中川 季枝子	<へ>	
中島 みち	ベリー, ビヨン	34
長滝谷 富貴子	ヘルトリング, ベーター	36
なかの まさたか	<ほ>	
中野 好夫	ホフマン, フェリクス	48
中村 浩三	堀内 誠一	44
中村 妙子	ホワイト, E・B	26
<に>	ポンド, マイケル	23
新妻 昭夫	<ま>	
新美 南吉	松岡 享子	12, 17, 18, 21, 23, 24, 32, 51
ニューウェル, ホープ	松川 真弓	50
<の>	マックロスキー, ロバート	33, 51
野村 滋	まど みちお	6
<は>	マーヒー, マーガレット	33
パウム, L・F	丸木 俊	42
パウリーシンG・D	マルシャーク, サムイル	46, 50
パークレム, ジル	万沢 まき	42
はせ みつこ	<み>	
ハッチ, メリー・C	宮沢 賢治	12
バトン, J・D	ミルン, A・A	47
ハムズン, マリー	<も>	
林 明子	茂田井 武	12
張替 恵子	本川 達雄	3
<ひ>	森 はな	11
ピアノコフスキー, ヤン		
ピセット, ドナルド		25

<や>

柳生 弦一郎	5
やしま たろう	47
矢島 真澄	40
山口 智子	44
山田 真	5
山内 玲子	30
山脇 百合子	18

<ゆ>

湯浅 芳子	46
-------	----

<よ>

吉田 新一	28
ヨーレン, ジェイン	53

<ら>

ライス, イブ	20
ラダ, ヨセフ	45
ラチョフ, E	46
ラバスティダ, アウロラ	49

<り>

リンドグレーン, アストリッド	34, 41, 43
-----------------	------------

<れ>

レイ, H・A	3
レイ, メアリー・リン	58

<ろ>

ロジャンコフスキー, フェ・ドル	58
ローズ, ドロシー	29
ロッシュ・マゾン, ジャンヌ	44
ロビンソン, ジョーン・G	23
ロフティング	30

<わ>

和田 誠	7, 49
渡辺 茂男	19, 22, 42, 51
ワトキンス=ピッチフォード, D・J	20

<選定・執筆>

福岡おはなしの会
子どもと絵本の会
福岡市総合図書館

<表紙絵>

渡辺 千香
子（福岡おはなしの会）

モデル児童図書目録（中級）

平成 20 年 3 月発行

編集・発行 福岡市総合図書館

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7-1

TEL 092-852-0600 FAX 092-852-0609

<http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>

モデル児童図書目録（中級）（平成 20 年 3 月）に基づいて、
制作されました。

